

# MLアーカイブの公開・非公開の 議論を行う小グループ報告

---

2018/05/25 IGCJ 24

MLアーカイブの公開・非公開の議論を行う小グループ

本田聖

# 小グループについて

---

- MLアーカイブの公開・非公開の検討を行い、案をまとめる有志の集まり
- メンバー
  - 中野拓帆、本田聖の2名
  - ミーティングは上記メンバーに、IGCJを考える会と事務局メンバーを加えて実施
- ミーティング開催実績
  - 第1回 2018年4月10日(火)
  - 第2回 2018年4月27日(金)
  - 第3回 2018年5月17日(木)

# 第1回ミーティングで話し合ったこと

- 自己紹介
- IGCJ MLで出た賛否両方の意見を確認
- MLアーカイブの公開/非公開、それぞれの場合における方法や論点、実現性、利点と欠点について議論
- 今後のこのミーティングの進め方とIGCJメンバーへどのようにこの小グループの活動報告をするかの意見をすり合わせ
- 会合のメモは、(IGCJ-member 819) 参照

## 第2回ミーティングで話し合ったこと

- 参加者が参加しやすいIGCJにするという観点で、以下の場合における、各メリット・デメリットを議論
  1. メンバー限定＋アーカイブ非公開(現状)
  2. メンバー限定のアーカイブ公開
  3. 不特定多数へのアーカイブ公開
- 公開されるメリット
  - 検索エンジンを用いた検索が可能で過去の経緯を調査しやすい
- 公開されるデメリット
  - メンバー限定で公開する場合、メンバー認証が必要
  - 参加者の覚悟を問う
  - 一般公開すると見るだけで十分になり、メンバーの概念を変えないか
- 発言の範囲が狭まるということはあると思うが、気軽な発言がしにくくなるということはないのではないか
  - そうなると、いっそのことWeb掲示板+メールでの通知機能の方がよいのではないか
- 会合のメモは、(IGCJ-member 859) 参照

# 第3回ミーティングで話し合ったこと

- MLのアーカイブ公開・非公開時におけるメリットとデメリット(前回資料のリバイズ版)を再確認
  - 不特定多数に公開するという方向性を再度確認した
- アーカイブ公開に向けた進め方について議論
  - メンバーに今一度意見照会をするかどうか
  - 移行についての方法論
- 会合のメモは、(IGCJ-member 886) 参照

# MLアーカイブ公開/非公開時のメリット・デメリット

アーカイブ非公開		公開	
		メールアーカイブを永続的に誰もが閲覧可能	
メリット	/	メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>検索エンジンを用いた検索が可能</li> <li>過去の議論の経緯、発言の変遷、決定事項が調べやすい</li> <li>新規の人にも団体の性格を理解してもらいやすい</li> <li>「インターネットガバナンスの原則」におけるオープンネスにマッチしている</li> </ul>
デメリット		デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開前提のため、発言に参加者の覚悟を問う</li> <li>メンバーでなくても発言を参照可能であるためメンバーになる意味が薄れる可能性がある</li> <li>荒れたときの対応や、問題発言(誹謗中傷、プライバシー侵害等)への対応のため、規約等を十分に整える必要がある。状況によっては対応労力が過大にかかる。</li> </ul>
メンバーにメールのみ配信(現在のMLのあり方と変わらない)		メンバー限定でメールアーカイブが閲覧可能	
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録に残ることを意識しない(後日に検証できなくてもよい気軽な)話がしやすい</li> </ul>	メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>(実装できれば)検索エンジンを用いた検索が可能</li> <li>(実装できれば)過去の経緯、発言の変遷、決定事項が調べやすい</li> <li>インターネット上に完全にさらされるわけではないので、記録に残ることを意識しない話も完全公開の場合よりはしやすい</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>検索性がなく、過去の経緯や決定事項を調べられない</li> <li>新規の人は過去の経緯を追う手段がない</li> <li>「インターネットガバナンスの原則」に沿った情報公開とは言えない</li> </ul>	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンバーにならないと発言できないため、メンバー認証の仕組みが必要</li> <li>「インターネットガバナンスの原則」におけるオープンネスに完全にマッチしない可能性がある</li> </ul>